

実践記録

117

シリーズ

モットイナイは地球を救う「エコライフ講座」

新発田市中央公民館 主任 斎藤百合子

1 きっかけ

環境問題については、以前から関心がありました。近年立て続けに起こる自然災害は温暖化に対する地球からの警鐘と考えていました。ちょうどそのころ「市民教養講座」という自由に企画できる講座の担当となったことから、環境問題を取り上げることにしました。

2 企画

主題が固苦しいものだけに、できるだけソフトで人々の関心を集められる内容を語れる講師をと、講師探しには時間を費やしました。

そんな中、新聞の別冊に入っていた「みんなの！エコライフ スローライフ」という冊子との出会いがありました。そこには環境のためにできる小さなことの提言がたくさん掲載されており、その冒頭で紹介されていたのが、橘さんでした。橘さんは環境省環境カウンセラーとして、ごみの減量やリサイクル活動に熱心に取り組んでいる方です。ここはひとつ講師にとお願いしたところ快く引き受けてくださいました。

第2回目は実践をと思っていたので、啓発活動に熱心な新潟市の資源再生センターの「エコパーク」見学を企画。

第3回目は最終回。1・2回目がいわば「官」の取り組みなので、最後は「民」の取り組みを紹介しようと、「チームエコ」の活動で有名なテレビ局にお願いしたところ、こちらも快く承諾してくれました。

講師がいずれも快諾してくれ、船出は順風に思われましたが…。

3 募集の苦労

広報紙に掲載し、募集を開始しましたが、困ったことに人が集まりません。そこで、環境推進課に環境団体へチラシの配布をお願いしたところ、マイ

バック運動に熱心な団体から参加の申し込みが…。その他に、当館で他の講座に受講している方や講師のお知り合いなど、17名の参加をいただき、なんとか開講にこぎつけました。

4 講座内容

第1回目は、「ドイツに学ぶエコ生活」と題し、環境先進国として知られるドイツの生活を紹介。日常生活の中で物を捨てない、再利用（リユース）する国民性を感じました。また、当市の冬のイベント「全国雑煮合戦」でリユース食器を利用していることも紹介。初めて知った参加者も多かったようです。

第2回目エコパーク見学。実際のごみ処理の現場を見ることで排出抑制（リデュース）がいかに大切かを知るよい機会となりました。

第3回は「チームエコの活動」と題し、チームエコを始めたきっかけや現在のチームエコワークの取り組み、また佐渡市片野尾地区に残る豊かな自然を守る活動を紹介。講師のUX新潟テレビ21の田中さんはチームエコを企画運営する傍ら、大学院で環境科学を学ぶ研究生でもあり、深い見識から環境保護活動の重要性を訴えました。

5 講座を終えていと思うこと

全3回を通じて感じたことは、現場をよく知る講師の話が受講者の興味を引き、そのことから活発な意見交換が行われたということです。その点では関心を喚起するという目的を達成できたと思っています。

アンケートでも、こういった講座を続けてほしいという意見もありましたが、単年度事業なので今回で終了しました。

しかし、昨冬の小雪や今夏の猛暑は記憶に新しいところですが、温暖化の影響は確実に私たちの足元に及んできています。行政をあげて精力的に取り組むべきときが来ていると感じています。